

# 自己点検書

## 説明資料

電子情報通信学会  
平成17年度第2回JABEE自主研修会

平成18年3月4日

JABEE基準委員会 幹事

佐藤 之彦 (千葉大学)

# この説明の内容

---

## 1. 自己点検書の位置付け

## 2. 自己点検書の考え方

## 3. 自己点検書の内容と書式

- 自己点検書(本文編, 引用・裏付資料編)の構成
- プログラム情報
- プログラム概要
- 前回受審時からの改善・変更
- 自己点検結果の記述
- 添付資料

# 審査関連資料

---

## この説明に関連するJABEE公式文書

1. 自己点検書(本文編)(2006年度版) Word形式
2. 自己点検書(引用・裏付資料編)(2006年度版) Word形式
3. 自己点検書作成の手引き (2006年度版) PDF形式

いずれも

<http://www.jabee.org>

より入手可能

# 認定審査の手段

---

認定基準を満足しているかを**自己点検書の審査**と**実地審査**により確認し、判定する

**自己点検書**： 認定を希望する技術者教育プログラムが認定基準を満足していることを、裏付資料等を提示して、審査員に説明するための非常に重要な資料

**実地審査**： プログラムが実施されている教育機関の現場を審査チームが訪問して行う視察審査

# 大まかな認定審査の流れ

---

- 申請受付, 審査チームの決定
- 自己点検書による審査
- 実地審査
- 審査報告書の作成
- 各分野ごとの調整
- JABEEにおける調整, 認定可否決定・通知
- 不服申立て

# 自己点検書とは

---

- 認定を希望する技術者教育プログラムが認定基準を満足していることを、裏付資料等を提示して、審査員に説明するための非常に重要な資料
- 教育機関の当該プログラムの改善に役立てることも意図されている
- 「本文編」と「引用・裏付資料編」に分けてファイリングし、厚さの合計は原則として60mm以内とする

# 自己点検書(本文編)の構成

---

## プログラム情報

- 高等教育機関名, プログラム名, 学位名, 連絡先

## プログラム概要

## 前回受審時からの改善・変更 (初回審査では不要)

## 自己点検結果

- 自己点検総括表(表1).....5段階評価
- 認定基準各項目の点検結果の記述
- 引用・裏付資料名, 実地審査閲覧資料名

# 自己点検書(引用・裏付資料編)の構成

---

## 実地審査で閲覧できる裏付資料名の一覧表

### 1. プログラム情報

- 高等教育機関名, プログラム名, 学位名, 連絡先

### 2. 自己点検結果の裏付資料等

- 各点検項目に対応する引用・裏付資料および実地審査閲覧資料名, 表2～表9

## 参考資料

- 教員個人データ



# 体裁について

---

- 本文編には通しページ番号を付し、目次をつける
- 引用・裏付資料編にも目次をつけ、章(基準)ごとにページ番号を付す
- 引用・裏付資料に、基準ごとの資料番号を付す
- 引用・裏付資料編の目次の次頁以降に、実地審査で閲覧できる裏付資料の一覧表を添付する
- 本文編では、記述を裏付ける資料が引用・裏付資料編のどこに示されているかを明記する

# 裏付資料等の区分け

## 「引用・裏付資料」と「実地審査閲覧資料」

自己点検書の記述を裏付ける資料のうち、時間をかけて精査する必要のある資料は「引用・裏付資料」として自己点検書に添付し、現地で確認すれば十分である資料や自己点検書に添付することに差し支えがある資料については「実地審査閲覧資料」として実地審査時に提示する。また、引用・裏付資料で分量の多いものは、代表例を自己点検書に添付し、全体は実地審査閲覧資料としてよい。

# 裏付資料等の区分け(つづき)

## 「引用・裏付資料」, 「実地審査閲覧資料」の必須項目

引用・裏付資料, 実地審査閲覧資料として必須の資料については, 本文編の該当箇所に具体的な名称が示されているが, 「(以下は例示)」という記述以下に名称が示されている資料は例示であり必須ではない。なお, 説明の都合で必要な場合は, 実地審査閲覧資料の必須資料を引用・裏付資料として添付しても差し支えない。

# プログラム情報の記述

---

(1) 高等教育機関名

(2) プログラム名

(3) 学位名

(4) 連絡先

・JABEE対応責任者氏名 (学部長, 学部教務関係責任者等)

所属・職名, 郵便番号, 住所, 電話番号, ファックス番号,  
メールアドレス

・プログラム責任者氏名 (プログラムの対応責任者)

所属・職名, 郵便番号, 住所, 電話番号, ファックス番号,  
メールアドレス

# 自己点検結果の記述について

---

- 点検基準に基づいた自己点検結果を、「手引き・表1」で与えられている5段階評価の点数で本文編の自己点検総括表(表1)に記入する
- 自己点検総括表に記入した5段階評価の根拠を、必要な資料等を用いて説明・記述する
- 他の点検項目の点検基準に対する説明を参照しなくても、各点検基準をどこまで満たしているかを判断できるように自己完結形にすることが望ましい
- 引用・裏付資料については重複を避け、同一資料を複数回参照してもよい(参照すべきページと部分を明記する)
- 第三者機関で十分に審査されている項目は、JABEEによる審査を省略できるので、関係資料を提示する

# JABEE認定基準の概要

---

基準1 学習・教育目標の設定と公開

基準2 学習・教育の量

基準3 教育手段

基準4 教育環境

基準5 学習・教育目標の達成

基準6 教育改善

分野別要件

# 自己点検結果の記述 (1)

**表1**  
**自己点検総括表**

基準の各項目について、「手引き・表1」に従って、5段階評価するための表

各基準に対する点検結果の末尾で、点数の判定理由を述べる

基準の各項目		点数(1~5)
基準1: 学習・教育目標の設定と公開		
基準2: 学習・教育の量		
基準3: 教育手段	(1) 入学および学生受け入れ方法	
	(2) 教育方法	
	(3) 教育組織	
基準4: 教育環境	(1) 施設, 設備	
	(2) 財源	
	(3) 学生への支援体制	
基準5: 学習・教育目標の達成		
基準6: 教育改善	(1) 教育点検	
	(2) 継続的改善	
補則: 分野別要件		

# 自己点検結果の記述 (2)

## 手引き・表1

点検基準

点検基準	教育手段			教育環境			学習・教育目標の達成	教育改善	
	入学および学生受け入れ方法	教育方法	教育組織	施設、設備	財源	学生への支援体制		教育点検	継続的改善
(1-1) プログラム独自の学習・教育目標〔(A), (B), (C), (D)〕が設定されているか。 (1-2) 学習・教育目標は、基準1の(1)の(a)~(h)の各内容を明確に含んでいるか。 (1-3) 学習・教育目標は、具体的に評価可能なか。 (1-4) 学習・教育目標は、公開され、教員、学生に周知されているか。 (2) 学習・教育目標は、伝統、資源および卒業生の活躍分野等を考慮し、社会の要求や学生の要望にも配慮したものであるか。	(1) プログラムは4年間に相当する学習・教育で構成され、124単位以上を取得し、学士の学位を得た者を修了生としているか。 (2) プログラムは学習保証時間(教員の教授・指導のもとに行なった学習時間)の総計が1,800時間以上を有しているか。さらに、その中には、人文科学、社会科学等(語学教育を含む)の学習250時間以上、数学、自然科学、情報技術の学習250時間以上、および専門分野の学習900時間以上が含まれているか。	(1) 学生にプログラムの学習・教育目標を達成するために必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が開示され、それに従って選抜が行われているか。 (2) 学生のプログラムへの登録を共通教育等の後に決める場合には、入学時からの学習・教育が審査の対象となることを考慮して、プログラム履修者を決める具体的方法が定められ、開示されているか。また、それに従って履修者の決定が行われているか。 (3) 授業等での学生の理解を助け、勉学意欲を増進し、学生の要望にも対応できるシステムが在り、その仕組みが開示され、実施されているか。 (4) 学生自身にも、プログラム学習・教育目標を達成するための具体的な方法が開示され、それに従って選抜が行われているか。	(1) プログラムの学習・教育目標を達成するために設計されたカリキュラムを、適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげうる能力を持った十分な数の教員と教育支援体制が存在しているか。 (2) 教員の資質向上を図る仕組み(ファカルティ・ディベロップメント)があり、それが開示され、活動が実施されているか。 (3) 教員の教育に関する貢献の評価方法が開示され、実施されているか。 (4) カリキュラムに設定された科目間の連携し、教育効果の改善が図られているか。	(1) プログラムの学習・教育目標を達成するために必要な施設、設備を整備し、維持・運用するための必要な財源確保への取り組みが行われているか。	(1) 教育環境に関して、学生	(1) シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目	(1) 学習・教育目標の達成度の評価結果等に基づき、基準	(1) 教育点検の結果に基づき、基準1に則しプログラ継続的改善する仕組みが、それを行うための具体的な実施されている	
1	(1-1)以下のすべてが全く満たされていない。	(1)、(2)とも満たされていない。	(1)以下すべてが全く満たされていない。	(1)以下すべてが全く満たされていない。	全く満たされていない。	全く満たされていない。	(1-1)以下のすべてが全く満たされていない。		
2	(1-1)~(1-4)は大体満たされているが、(2)は不十分である。	(1)と(2)は大体満たされているが、(3)は不十分である。	少なくとも(1)と(2)のうち一方が不十分である。	(1)は満たされているが、他の三つは不十分である。	不十分である。	不十分である。	(1-1)~(1-4)は大体満たされているが、(2)は不十分である。		
3	(1-1)~(1-4)は十分満たされている。(2)はかなり満たされている。	(1)と(2)は十分満たされている。(3)はかなり満たされている。	(1)と(2)は十分満たされている。(3)と(4)はかなり満たされている。	(1)は十分満たされている。(2)、(3)と(4)はかなり満たされている。	かなり満たされている。	かなり満たされている。	(1-1)~(1-4)は十分満たされている。(2)はかなり満たされている。		
4	(1-1)~(1-4)は十分満たされている。(2)は大体満たされている。	(1)と(2)は十分満たされている。(3)は大体満たされている。	(1)と(2)は十分満たされている。(3)と(4)は大体満たされている。	(1)は十分満たされている。(2)、(3)と(4)は大体満たされている。	大体満たされている。	大体満たされている。	(1-1)~(1-4)は十分満たされている。(2)は大体満たされている。		
5	(1-1)~(1-4)、(2)のすべてが十分満たされている。	(1)~(3)まですべてが十分満たされている。	(1)~(4)まですべてが十分満たされている。	(1)~(4)まですべてが十分満たされている。	十分満たされている。	十分満たされている。	(1)~(4)まですべてが十分満たされている。	(1)~(3)まですべてが十分満たされている。	十分満たされている。



# 自己点検結果の記述 (3)

## 1 基準1： 学習・教育目標の設定と公開

### (1) 学習・教育目標の設定と公開

#### (i) 学習・教育目標(箇条書き)

(A) \* \* \* \* \*

(B) \* \* \* \* \*

.

各プログラムで設定  
した学習・教育目標を  
記載する

#### (ii) 基準1(1)の(a)～(h)の要求との関係の説明

#### 引用・裏付資料

表2(学習教育目標と基準1の(1)との対応), 表3(各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準)

# 自己点検結果の記述 (4)

表2

表2 学習・教育目標と基準1の(1)との対応

各学習・教育目標〔(A), (B), (C)---〕が基準1の(1)の知識・能力〔(a)~(h)〕を主体的に含んでいる場合には◎印を、付随的に含んでいる場合には○印を記入する。

基準1の(1)の 知識・能力	(a)	(b)	(c)	(d)				(e)	(f)	(g)	(h)
				(1)	(2)	(3)	---				
学習・教育目標											
(A)											
(B)											
(C)											
(D)											
(E)											
⋮											
⋮											
⋮											

基準1(1)および分野別要件  
で求められている項目

プログラム  
が独自に設  
定した学習  
・教育目標

# 自己点検結果の記述 (5)

表3

表3 学習・教育目標とその評価方法

	学習・教育目標	関連する 基準1 (1) (a)~(h) の項目	評価方法	備考
(A) デザイン能力	<p>注文主のニーズと制約条件を考慮して設計仕様を作成できること</p> <p>設計仕様を満足するための複数の解決策を考案し、それぞれの解決策を評価して妥当な解決策を選択し、概念設計を行うこと</p> <p>適切な設計ツールや方法論により、詳細設計を行うこと</p> <p>詳細設計に基づいて製作した製品が、満足すべき規制に適合していることを文書で示せること</p>	<p>(e)</p> <p>(b)</p> <p>(a)</p> <p>(e)</p> <p>(b)</p> <p>(e)</p>	<p>「〇〇プロジェクト」の授業で、顧客からの注文に対応して設計仕様を作成する課題を与え、設計仕様をどのような考え方に基づいて作成したかについてレポートを提出させ、評価する</p> <p>「〇〇プロジェクト」の授業で、与えられた設計仕様を満足するための概念設計を行わせ、学生同士で概念設計を基づいてレポートを作成させる</p> <p>「〇〇設計」の授業で、顧客からの注文に対応して設計仕様を作成する課題を与え、設計仕様をどのような考え方に基づいて作成したかについてレポートを提出させ、評価する</p> <p>「〇〇解析」の授業で、顧客からの注文に対応して設計仕様を作成する課題を与え、設計仕様をどのような考え方に基づいて作成したかについてレポートを提出させ、評価する</p> <p>「〇〇法規」の授業で、顧客からの注文に対応して設計仕様を作成する課題を与え、設計仕様をどのような考え方に基づいて作成したかについてレポートを提出させ、評価する</p> <p>「〇〇プロジェクト」の授業で、製作した製品が関連規制を満足することを説明する文書をレポートとして提出させ、評価する</p>	<p>特別な評価方法を実施しているなど、特記事項があれば記す。</p>

「何がどの程度できるようになるか」が具体的にわかるように記載する。

基準1(1)の(a)~(h)の項目のうち、関連項目を関連の強い順に列挙する。

評価の観点、評価の具体的方法が明確になるように記載する。複数の手段を併用して評価している場合は、それぞれの重みなどについても記載する。

# 自己点検結果の記述 (6)

表3(続き)

(B) 技術者倫理	専門家を対象とした倫理綱領の知識を持っていることを説明できること	(b) (a)	「〇〇倫理」の授業で、〇〇工学関連の学会の倫理綱領を調査し、理解した内容についてレポートを提出させ、評価する
	専門的な工学、数学、科学の実践の場面で、倫理次元の価値判断ができること	(b) (a) (e)	「〇〇工学」の授業で、トラブル隠しの問題についてディベートを行い、体験した議論の内容を考察したレポートを提出させ、評価する  「〇〇プロジェクト」の授業で、設計仕様を決定する際に、経済性と安全性のトレードオフの関係を考察する機会を与え、思考の過程をレポートとして提出させ、評価する
(C) 地球的視点	芸術、文学、あるいはその他の形体の文化について、演じたり、読んだり、あるいはそれ以外のかたちで参画することができること	(a)	関連事項に参画した証拠となるものを、学生個人のポートフォリオに保管させ、卒業研究配属時に評価する
	文化、社会とそれらに関わる秩序が、歴史的にどのように発達してきたのかについて理解し、説明できること	(a)	「〇〇」の授業で、関連事項を実例を挙げて理解させ、理解度を学期末試験で評価する
	国家間の関係、地球上の人々の相互依存関係について、理解し、説明できること	(a) (f)	「〇〇」、「××」の授業を履修した後、総合レポートを提出させ、評価する
	責任と義務を共有し、状況に応じて異なる役割を担えること	(f) (h)	「〇〇プロジェクト」において、異なる役割を体験させ、その様子(30%)と3回にわたる各自の参画状況についてのレポート(70%)で評価する

# 自己点検結果の記述 (7)

---

## 1 基準1: 学習・教育目標の設定と公開

### (1) 学習・教育目標の設定と公開(つづき)

- (iii) 学内外への公開方法と公開時期
- (iv) プログラムに関わる教員への周知方法
- (v) 学生への周知方法および周知時期(学年, 学期)

### 引用・裏付資料

例えば, 学科パンフレット, ホームページ, シラバス  
授業要覧, ガイダンス指導記録文書など

# 自己点検結果の記述 (8)

## 1 基準1： 学習・教育目標の設定と公開

### (2) 伝統, 資源, 卒業生の活躍分野等の考慮, 社会の要求や学生への要望への配慮

- (i) 過去4年間における学習・教育目標の改訂内容と改訂理由
- (ii) 社会の要求や学生の要望を考慮するためのシステムの存在と運用実績
- (iii) 学習・教育目標の水準の設定に関する説明

### 引用・裏付資料

例えば, 就職先一覧, 学習・教育目標改訂に関わる委員会に関する資料など

◎「学習教育目標の設定と公開」について, 表1に記入した点数と判定理由

# 自己点検結果の記述 (9)

---

## 2 基準2: 学習・教育の量

### (1) 卒業要件

#### 引用・裏付資料

例えば、学則の関係部分、学部授業要覧の  
関係部分、学科授業要覧の関係部分など

#### 実地審査閲覧資料

前年度(2004年度)修了生単位取得状況(氏名欄は不要)

# 自己点検結果の記述 (10)

---

## 2 基準2: 学習・教育の量

### (2) 学習保証時間

#### 引用・裏付資料

表4 (授業科目別学習保証時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度)

表5 (学習保証時間とその内訳)

学生別学習保証時間表 (学習保証時間がシステムとして保証されていない場合は必須)

◎「学習・教育の量」について, 表1に記入した点数と判定理由



# 自己点検結果の記述 (11)

**表4** 授業科目別学習保証時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度

表4 授業科目別学習保証時間および各授業科目の学習・教育目標一つ一つに対する関与の程度

授業科目名	単位数	必須、選択などの別	学年・学期	講義、演習、実験、研究等の別	合計時間数(時間)	学習保証時間(時間) <sup>※1</sup>								学習・教育目標に対する関与の程度 <sup>※3</sup>						
						学習内容の区分						授業形態				(A)	(B)	(C)	…	
						人文科学 社会科学 語学	数 学 自然科学 情報技術	専 門 分 野 <sup>※2</sup>					講義	演習	実験					その他
								(1)	(2)	(3)	(4)	その他								
〈記入例〉 物理学概論	2	必須	1・I	講義・演習	22.5		22.5						15	7.5			◎		○	
・ ・ ・ ・																				
卒業研究	5	必須	4・II	研究	400				200	150	50	400			300 <sup>※4</sup>	100 <sup>※4</sup>	◎		○	◎
・																				

※1 学習保証時間を時間単位で記入する。1時間は60分である。記入されている数字は例示である。

※2 一例として、分野別要件の中で専門分野に関する要件が(1)～(4)の四つの場合を示す。

※3 各授業科目の学習・教育目標の一つ一つに対する関与の程度を、主体的に関与する場合には◎印で、付随的に関与する場合には○印で示す

(注) 「認定・審査の手順と方法」の5.2で説明されている「他大学等における講義等(P)」、「インターンシップなど(Q)」、「教員によるカリキュラム上の指導の下に行われる、ビデオ、インターネット、放送大学等を利用した講義等で教員への質問ができないもの(R)」、「インターネットによる演習等で、教員への質問が可能なもの(S)」、「教員の引率する見学旅行など(T)」に相当する授業科目は、その学習・教育の形態を「講義、演習、実験、研究等の別」の欄に( )内の記号(P,Q,R,S,T)で示すこと。

※4 「講義」、「演習」、「実験」と「その他」への振り分けが困難な場合には、記入不要。

# 自己点検結果の記述 (12)

表5

表5 学習保証時間とその内訳

学習内容の区分		学習保証時間				
		必須あるいは選択の合計	講義*	演習*	実験*	その他*
人文科学, 社会科学等 (語学教育を含む) の学習	必須					
	選択					
	合計					
数学, 自然科学, 情報技術の学習	必須					
	選択					
	合計					
専門分野の学習	(1)	必須				
		選択				
		合計				
	(2)	必須				
		選択				
		合計				
	(3)	必須				
		選択				
		合計				
		必須				

# 自己点検結果の記述 (13)

---

## 3 基準3：教育手段

### 3.1 入学および学生受け入れ方法

#### (1) 入学選抜方法の開示とそれに基づく選抜の実施

- (i) 選抜の基本方針
- (ii) 具体的選抜方法
- (iii) 選抜方法の学内外への開示方法

#### 引用・裏付資料

入試要項抜粋，各年度の入学者数，  
応募者数データ(なるべく4年分)

# 自己点検結果の記述 (14)

---

## 3 基準3: 教育手段

### 3.1 入学および学生受け入れ方法

#### (2) プログラム履修者を定める具体的方法の開示とそれに基づく履修者決定

- (i) 決定の基本方針
- (ii) 具体的決定方法
- (iii) 決定方法の開示方法

#### 引用・裏付資料

履修振り分け規則, その他, 例えば, ホームページ関連部分

#### 実地審査閲覧資料

プログラム履修者名簿, プログラム履修者の移動記録

# 自己点検結果の記述 (15)

---

## 3 基準3： 教育手段

### 3. 1 入学および学生受け入れ方法

#### (3) 編入方法および編入基準と公開・実施

- (i) 選抜の基本方針
- (ii) 具体的選抜方法および選抜基準
- (iii) 選抜方法および選抜基準の学内外への開示方法

#### 引用・裏付資料

編入規則，開示の証拠(各種教務開示資料など)  
編入者人数データ(2年分)

◎「入学および学生受け入れ方法」について，表1に記入した点数と判定理由

# 自己点検結果の記述 (16)

---

## 3 基準3: 教育手段

### 3.2 教育方法

#### (1) カリキュラムの設計と開示

- (i) 学習・教育目標を達成させるためのカリキュラム設計
- (ii) カリキュラムの教員および学生への開示方法

#### 引用・裏付資料

表6(学習・教育目標達成のために必要な授業科目の流れ), その他, 例えば, 学科授業要覧

# 自己点検結果の記述 (17)

表6

表6 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育 目標	授 業 科 目 名							
	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	授業科目A → 授業科目B → 授業科目C	→ 授業科目D → 授業科目E(O)	→ 授業科目F(◎)	→ 授業科目G(O)		→ 授業科目H(◎)		→ 授業科目I(◎)
(B)				→ 授業科目J		→ 授業科目H(O) → 授業科目K(◎)	→ 授業科目L(◎) → 授業科目M	
(C)	→ 授業科目A	→ 授業科目D → 授業科目N	→ 授業科目O(◎) → 授業科目P(◎)	→ 授業科目R(◎) → 授業科目S(◎)	→ 授業科目T → 授業科目U	→ 授業科目V(◎)	→ 授業科目W(◎)	

# 自己点検結果の記述 (18)

---

## 3 基準3: 教育手段

### 3.2 教育方法

#### (2) 科目の授業計画書(シラバス)の作成・開示とそれに従った教育の実施

- (i) 各科目ごとのシラバス(カリキュラム中での位置付け, 教育内容・方法, 達成目標, 成績評価方法, 評価基準を明示)の作成
- (ii) 各科目における達成目標設定の際の社会の要請する水準の考慮方法
- (iii) シラバスの開示方法
- (iv) シラバスに従った教育の実施



# 自己点検結果の記述 (19)

---

## 3 基準3: 教育手段

### 3.2 教育方法

#### (2) 科目の授業計画書(シラバス)の作成・開示とそれに従った教育の実施 (つづき)

##### 引用・裏付資料

シラバスのコピー(主要科目のみでも可)

##### 実地審査閲覧資料

シラバス(プログラムに関連する全科目), その他, 例えば, 授業実施記録など

# 自己点検結果の記述 (20)

---

---

## 3 基準3: 教育手段

### 3.2 教育方法

#### (3) 授業等での学生支援の仕組みとその開示・実施

- (i) 学生支援の仕組み
- (ii) 学生支援の仕組みの開示方法
- (iii) 学生支援の仕組みの活動実績

#### 引用・裏付資料

例えば、授業評価アンケート結果の公開と教員による対応例、実験科目のTA配置実績、ガイダンスなど各種活動記録、オフィスアワーの実績など

# 自己点検結果の記述 (21)

---

## 3 基準3: 教育手段

### 3.2 教育方法

#### (4) 学生自身の達成度点検と学習への反映

##### 引用・裏付資料

例えば、達成度評価結果の学生への周知に関する資料、試験答案やレポートの返却率に関する資料

##### 実地審査閲覧資料

例えば、学生の学習に関するポートフォリオなど

◎「教育方法」について、表1に記入した点数と判定理由

# 自己点検結果の記述 (22)

---

## 3 基準3: 教育手段

### 3.3 教育組織

#### (1) 教員の数と能力および教育支援体制

- (i) 教員の数と能力
- (ii) 教育支援体制

#### 引用・裏付資料

表7(教員一覧表), 表8(教員の担当している授業科目と活動状況), 添付資料(教員個人データ), その他, 例えば, 学科事務室や学科技術室などの支援組織図

# 自己点検結果の記述 (23)

表7

表7 教員一覧表

氏名	年齢	職名	最高学位 (取得年)	勤務形態 <sup>※1</sup> ( 常勤 非常勤 学内兼任	経験年数				技術者資格の有無と 有の場合にはその種類と 取得年(西暦)	担当授業科目 <sup>※2</sup>
					企業	公共 団体	他大学等 教育・研究 機関	現在の 大学		

※1 : 非常勤の場合は年間の勤務時間をカッコ書きする。

※2 : 四年制大学の学部あるいは専攻科を含む短期大学あるいは専攻科を含む高等専門学校で担当しているすべての授業科目を記入する。

# 自己点検結果の記述 (24)

表8

表8 教員の担当している授業科目と活動状況

教員名	職名	担当している授業科目*1 (学部・大学院等の別, 学年, 学期, 単位数, 本人を含む担当教員数)	活動状況*2 (百分率)		
			教育	研究	その他*3

※1：教員の負担が適切かどうかの判断材料となるので、学部や大学院等で担当しているすべての授業科目を記入する。

流体力学 (学部 2 年, III 期, 2 単位, 1 名), 機械エネルギー工学特論 (大学院前期課程 1 年, I 期, 2 単位, 2 名), のように記す。

※2：仕事をしている時間 (睡眠, 食事, 通勤, 休憩時間は含まない) の内訳を百分率で示し, 全体で 100% になるようにする。大体の数字で構わない。

※3：主として高等教育機関の管理・運営活動や社会的活動がこれに当たる。

# 自己点検結果の記述 (25)

---

## 3 基準3: 教育手段

### 3.3 教育組織

#### (2) 教員の質的向上を図る仕組み(FD)の存在, 開示, 実施

- (i) FDの存在
- (ii) FDの開示方法
- (iii) FDの実績

#### 引用・裏付資料

例えば, 教育改善事例集(FD報告集), FD研修会開催記録と出席者数データ, 学内関連委員会の活動データと活動記録など

# 自己点検結果の記述 (26)

---

## 3 基準3: 教育手段

### 3.3 教育組織

#### (3) 教員の教育に関する貢献の評価方法の開示・実施

- (i) 教員の教育に関する貢献の評価方法
- (ii) 教育貢献評価方法の開示状況
- (iii) 教育貢献評価の実績  
基準6で要求される教育改善への利用実績

#### 引用・裏付資料

例えば、学内関連委員会の活動データ、活動記録、教育貢献賞受賞者データなど



# 自己点検結果の記述 (27)

---

## 3 基準3: 教育手段

### 3.3 教育組織

#### (4) 科目間の連携・教育効果改善教員間連絡ネットワーク組織の存在と活動の実施

- (i) 教員間連絡ネットワークの存在
- (ii) 教員間連絡ネットワークの活動実績

#### 引用・裏付資料

例えば、関連委員会活動データおよび活動記録、教室会議議事録関連部分、組織的教育活動計画および報告書など

◎「教育組織」について、表1に記入した点数と判定理由

# 自己点検結果の記述 (28)

---

---

## 4 基準4：教育環境

### 4.1 施設・設備

#### (1) 教室, 実験室, 演習室, 図書室, 情報関連設備, 自習・休憩設備および食堂等の整備

##### 引用・裏付資料

例えば, 各種施設利用案内・パンフレットなど

##### 実地審査閲覧資料

例えば, 学校建物構造用途別面積明細, 機械器具備品登録明細など

◎「施設・設備」について, 表1に記入した点数と判定理由

# 自己点検結果の記述 (29)

---

## 4 基準4： 教育環境

### 4.2 財源

#### (1) 施設、設備の整備・維持・運用に必要な財源確保への取り組み

##### 引用・裏付資料

例えば、教育研究経費配分資料(非公開の場合は、実地審査閲覧資料とする)など

◎「財源」について、表1に記入した点数と判定理由

# 自己点検結果の記述 (30)

---

## 4 基準4： 教育環境

### 4.3 学生への支援体制

#### (1) 教育環境に関して、学生への勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮するシステムの存在と、その仕組みの開示、活動の実施

- (i) 学生への支援体制の存在
- (ii) 支援体制の教員、職員および学生に対する開示
- (iii) 支援体制の活動実施状況

# 自己点検結果の記述 (31)

---

## 4 基準4：教育環境

### 4.3 学生への支援体制

- (1) 教育環境に関して、学生への勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮するシステムの存在と、その仕組みの開示、活動の実施 (つづき)

#### 引用・裏付資料

例えば、学生によるアンケートの結果、学生の要望に関するデータのホームページ上での開示例、指導教員制度に関する学科内活動記録など

◎「学生への支援体制」について、表1に記入した点数と判定理由

# 自己点検結果の記述 (32)

## 5 基準5: 学習・教育目標の達成

### (1) 科目ごとの目標に対する達成度評価の実施

#### 引用・裏付資料

表9(学習・教育目標を達成するために必要な主要授業科目の評価方法と評価基準), その他, 例えば, 学科内関連委員会活動記録, 卒業研究の複数教員による採点結果例, 主要科目のシラバス, 成績原簿および関連記録例など

#### 実地審査閲覧資料

プログラムに関わる全科目のシラバス, 主要科目の成績原簿および関連記録(教科書, 試験問題, 合格最低ランクの全学生の答案・レポートなど最近2年分)

# 自己点検結果の記述 (33)

表9

表9 学習・教育目標を達成するために必要な  
主要授業科目の評価方法と評価基準

主要授業科目名 (少なくとも表6に ◎印を記した授業 科目を含む)	科目の達成目標	評価方法と基準
◎◎工学	◎◎工学に関する基本的な専門用語の意味を理解できる △△の法則について理解し、これを用いて簡単な△△の解析ができる ××の法則について理解し、これを用いて簡単な△△の解析ができる ○◎の法則について理解し、これを用いて簡単な△△の解析ができる ○◎の法則について理解し、これを用いて簡単な△△の解析ができる △△の法則について理解し、これを用いて簡単な△△の解析ができる △△の法則について理解し、これを用いて簡単な△△の解析ができる	「科目の達成目標」ごとに、具体的な評価の方法と、当該科目の成績に対する評価の重みが明確になるように、シラバスの記載内容を抜粋して転記する。
◎◎工学実験	△△の法則について理解し、これを用いて実際に△△の観測ができる ◎◎工学における基礎的実験を計画し、必要な装置構成図と手順書を作成できる 観測データを考察し、◎◎工学における基本的原理との関連を説明できる 観測データをもとに、現象を把握するために有効な形式でグラフを作成するこ	「科目の達成目標」ごとに、具体的な評価の方法と、当該科目の成績に対する評価の重みが明確になるように、シラバスの記載内容を抜粋して転記する。

# 自己点検結果の記述 (34)

## 5 基準5: 学習・教育目標の達成

### (2) 他の高等教育機関で取得した単位に関する評価方法と実施および編入生等が編入前に取得した単位に関する評価方法と評価基準の作成とそれに基づく評価の実施

- (i) 評価方法と評価基準の作成
- (ii) 評価方法と評価基準の運用

#### 引用・裏付資料

例えば、評価方法・評価基準を記載した文書、評価実施例など

#### 実地審査閲覧資料

例えば、評価実施記録など



# 自己点検結果の記述 (35)

## 5 基準5： 学習・教育目標の達成

### (3) 学習・教育目標の各項目に対する達成度の総合的評価方法・評価基準の作成とそれに基づく評価の実施

- (i) 学習・教育目標の各項目の達成度の評価方法と評価基準の設定(表3に示した評価方法と評価基準を定めた際の考え方を含む)
- (ii) 学習・教育目標の各項目の達成度評価方法と評価基準を設定した際に考慮した「社会の要求する水準」の具体的根拠
- (iii) 学習・教育目標の各項目の達成度評価方法と評価基準の運用実績

# 自己点検結果の記述 (36)

---

---

## 5 基準5: 学習・教育目標の達成

### (3) 学習・教育目標の各項目に対する達成度の総合的評価方法・評価基準の作成とそれに基づく評価の実施 (つづき)

#### 引用・裏付資料

表3(各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準), その他, 例えば, 評価結果の例, 評価実施会議議事録, 就職先へのアンケート(卒業生・上司), 外部評価結果など

# 自己点検結果の記述 (37)

---

---

## 5 基準5： 学習・教育目標の達成

### (4) 修了者全員のすべての学習・教育目標の達成

#### 引用・裏付資料

例えば、評価実施議事録など

#### 実地審査閲覧資料

前年度修了生あるいは実質的に同等な修了生の評価結果

◎「学習・教育目標達成度の評価」について、表1に記入した点数と判定理由

# 自己点検結果の記述 (38)

---

## 6 基準6：教育改善

### 6.1 教育点検

#### (1) 学習・教育目標達成度の評価結果に基づいて、基準1-5に則してプログラムを点検できる教育点検システムの存在とその開示・実施

- (i) 教育点検システムの存在
- (ii) 教育点検システムの教員に対する開示
- (iii) 教育点検システムに関する活動の実施

#### 引用・裏付資料

例えば、会議や委員会名簿、規約等、教員による授業改善策の公開例、学科内関連委員会活動データおよび活動記録、組織的教育活動計画および報告書など

# 自己点検結果の記述 (39)

---

---

## 6 基準6：教育改善

### 6.1 教育点検

#### (2) 教育点検システムにおける社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みの存在と、教育点検システム自体の機能も点検できる構成

- (i) 社会の要求や学生の要望に配慮する仕組みの存在
- (ii) 点検システム自体を点検できる構成

#### 引用・裏付資料

例えば、会議や委員会名簿、開催データ、議事録、アンケート結果など

# 自己点検結果の記述 (40)

---

## 6 基準6：教育改善

### 6.1 教育点検

#### (3) 教育点検システムを構成する会議や委員会等の記録の当該プログラム関係教員に対する閲覧手段の提供

(i) 関係教員が記録を閲覧する方法

#### 引用・裏付資料

例えば、関連委員会議事録の配信電子メール例、関連委員会議事録の教員用ホームページ掲載例など

◎「教育点検」について、表1に記入した点数と判定理由

# 自己点検結果の記述 (41)

## 6 基準6：教育改善

### 6.2 継続的改善

(1) 教育点検の結果に基づいて、基準1－6の内容(分野別要件を含む)に則してプログラムを継続的に改善するシステムの存在と、改善活動の実施

- (i) 改善システムの存在
- (ii) 改善活動の実施状況

#### 引用・裏付資料

例えば、学内関連委員会活動データおよび議事録、教務委員会開催記録および議事録、学科内関連委員会活動データおよび議事録、組織的教育計画書など

◎「継続的改善」について、表1に記入した点数と判定理由

# 自己点検結果の記述 (42)

---

## 2.7 分野別要件

分野別要件の両括弧の数字で示されている各項目が認定基準を満たしていることは、**基準1～6のうちの関連する項目の自己点検結果の中で説明されているはず**である。分野別要件のそれぞれの項目について、自己点検結果のどの部分で説明されているかを示した**一覧表を作成**して、審査チームが審査時に直ぐに理解できるよう工夫し、説明すること。



# 再掲 自己点検書(引用・裏付資料編)の構成

---

## 実地審査で閲覧できる裏付資料名の一覧表

### 1. プログラム情報

- 高等教育機関名, プログラム名, 学位名, 連絡先

### 2. 自己点検結果の裏付資料等

- 各点検項目に対応する引用・裏付資料および実地審査閲覧資料名, 表2～表9

### 参考資料

- 教員個人データ

# 自己点検書(引用・裏付資料編)の構成

## 実地審査閲覧資料名の一覧表

実地審査で閲覧できる裏付資料名の一覧表

(下記の番号1, 2, 3に対する裏付資料名は例示)

番号	裏付資料名
1	卒業論文
2	数学の成績関連資料
3	物理基礎の成績関連資料

# 「添付資料 教員個人データ」の記載項目

---

- 氏名(年齢), 所属・職名, 最高学位, 勤務形態
- 現在の担当科目(当該プログラム, それ以外)
- 授業担当者としての適性の説明
- これまでの教育改善への取り組み, 教育に関する研鑽, 教育関係の学会活動など
- 職業経験年数, 実務経験, 技術者資格
- 活動状況(教育, 研究, その他の時間比率)
- その他, アピールしたい特記事項など

# 最近の改訂内容(2003年度→2004年度)

---

1. 基準1, 基準6の改訂に伴う, 項目名の変更
2. 「プログラム概要」の新設
3. 「前回受審時からの改善・変更」の新設
4. 参考付表1を表4として作成を義務化(これまでの表4以降の表番号が+1される)
5. 教員個人データを科目適合性の記述中心に変更
6. 引用・裏付資料編に「**実地審査閲覧資料名**」の欄を追加

# 最近の改訂内容(2004年度→2005年度)

---

1. 表3, 6, 9が, 2004年5月に公表された修正版(基準委員会200405B)に改訂された。
2. 前項に伴って, 「自己点検書作成の手引き」の関連箇所の説明に, 基準委員会補足文書(基準委員会200405A)の内容が加筆された。

# 最近の改訂内容(2005年度→2006年度)

---

1. 中間審査の際にも使用できるようにするために、表紙の審査の種別に「中間審査」を追加する
2. 中間審査の場合の自己点検結果の記述範囲に関して、「自己点検書作成の手引き」に説明を追記する
3. その他、内容に関わらない字句の修正

# 常に最新版を使用してください

この説明は、

2006年度版のマニュアル、書式等

に準拠しています。

JABEEのマニュアル、書式等は、ここしばらくは細かい点が毎年修正されると予想されます。オブザーバ・審査員としての参加、あるいは受審にあたっては、必ずその年度のマニュアル、書式等を使用してください。

最新版のマニュアル、書式等の入手先  
<http://www.jabee.org>